

教育目標：よく考え 進んで学ぶ子 自分も友だちも大切にする子
正しく判断し 行動できる子 体を鍛え 最後までやりぬく子



学校だより

高松

令和7年9月1日 発行

立川市立第五小学校

校長 関口 保司

〒190-0011
立川市高松町1丁目12番25号
TEL 042-523-5238
042-523-5230 (こだま学級)
FAX 042-529-0854
HP <http://www.tachikawa-edu.jp/es05/>

「熱い情熱」と「固い信念」 ~川淵三郎氏の書籍より~

校長 関口 保司

子どもたちの元気な声が、学校に戻ってきました。2学期のスタートです。2学期は、運動会や学習発表会などの大きな行事が実施されます。一人一人の子どもたちが、自身の力を大きく伸ばしていく様子に、学校と保護者、地域が協力し合い教育活動を進めていきたいと考えています。

今年の夏は、厳しい暑さや地震・大雨等での災害が多く起きました。被害にあわれた方々に、心よりお見舞いを申し上げます。そして、このような時代における教育の役割を、改めて考える夏でもありました。本校では、2学期から環境に配慮したストローが給食で導入されます。導入にあたって、1学期に校長が4・5年生に対して授業を行いました。9月には6年生へ、導入業者が中心になって授業を実施します。子どもたち自身が、これらの授業から何かを考えてほしいと願っています。

さて、私はスポーツが大好きです。今年の夏もテレビやインターネットでたくさんのスポーツを観戦しました。また、日本のスポーツ改革に貢献した川淵三郎氏の書籍も数冊読み、多くのことを学びました。川淵氏は、1993年にサッカーのJリーグを発足させただけでなく、2014年当時分裂して2つのリーグで行われていた男子バスケットボールを、国際バスケット連盟の基準に従いBリーグに統一した中心者です。私の父と同じ1936年生まれの川淵氏に学ぶのは、その目標を成し遂げようとする「熱い情熱」と「固い信念」です。

Jリーグ発足当時、日本のスポーツ界は企業が支えていました。野球はもちろん、サッカーも同じです。川淵氏はそれを地域密着・ホームタウン制に大きく舵を切りました。当然多くの反発が起きました。川淵氏と故渡辺恒雄氏（読売新聞主筆）との論戦は有名です。しかし、後に川淵氏は2人の論戦を「日本のスポーツ界をリードしていくための共闘へのスタートでした。（中略）渡辺さんこそ、僕にとって、Jリーグにとって、真の恩人です。」と述べています。

バスケットの男子の2リーグを統一してBリーグを創り上げる時、川淵氏は78歳でした。しかも4ヶ月程度の短期間で目標を達成しないと、女子の日本代表がリオ五輪予選に参加できないという厳しい状況でした。それでも川淵氏が目標を成し遂げたのは、状況把握の正確さとスピード、感受性、ち密さ、そして情の深さだとされています。後にバスケットボール元日本代表の田臥雄太氏は「大事なものはとてもシンプルで、あの時僕は、それが情熱だと学びました。」と語っています。

いよいよ2学期がスタートしました。これから時代の教育に向けて、文科省も東京都も活発な議論が展開されています。第五小学校も様々な取組にチャレンジし、子どもたちの可能性を伸ばしていきたいと考えています。今学期も、ご理解・ご協力をよろしくお願いします。